

県内の患者数

	今週	前週		今週	前週
インフルエンザ	0	0	百日咳	0	0
RSウイルス感染症	25	26	ヘルパンギーナ	34	62
咽頭結膜熱	6	9	流行性耳下腺炎 (おたふくかぜ)	62	75
A群溶血性連鎖球菌 咽頭炎	35	31	急性出血性結膜炎	0	1
感染性胃腸炎	146	216	流行性角結膜炎 (はやり目)	29	20
水痘	24	19	細菌性髄膜炎	0	0
手足口病	116	142	無菌性髄膜炎	0	2
伝染性紅斑 (りんご病)	3	6	マイコプラズマ肺炎	2	2
突発性発しん	43	35	クラミジア肺炎	0	0

報告が多い感染症

- 感染性胃腸炎
- 手足口病
- 流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)

- 感染性胃腸炎は、報告数 146件(前週報告数 216件)と減少。
地区別では、人吉、有明、山鹿に多く報告がみられる。
年齢別では、1歳の32件を最多に幅広い年齢層から報告されている。
- 手足口病は、報告数 116件(前週報告数 142件)と減少。
地区別では、天草、八代、菊池に多く報告がみられる。
年齢別では、1歳の36件を最多に、主に6歳以下からの報告である。
- 流行性耳下腺炎は、報告数 62件(前週報告数 75件)と減少。
地区別では、水俣、有明、菊池に多く報告がみられる。
年齢別では、5歳の15件を最多に、10～14歳以下からの報告である。

◆◆◆保健所別発生状況(インフルエンザ・小児科・眼科・基幹定点)◆◆◆

保健所名	インフルエンザ	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性連鎖球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎
熊本市保健所	0	6	3	22	33	10	30	0	14	0	5	24		23				1
山鹿保健所	0	0	0	0	10	0	1	0	1	0	0	1	*	*				
菊池保健所	0	10	1	1	12	2	15	0	4	0	7	7		6				
阿蘇保健所	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	2	*	*				
御船保健所	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	*	*				
八代保健所	0	3	1	4	11	2	19	0	2	0	0	5						
水俣保健所	0	0	0	0	0	1	4	0	4	0	0	5	*	*				
人吉保健所	0	0	0	2	20	3	7	0	3	0	3	1	*	*				1
有明保健所	0	4	1	2	32	5	4	0	8	0	1	12						
宇城保健所	0	0	0	1	13	1	10	1	6	0	4	1						
天草保健所	0	2	0	3	10	0	26	2	1	0	14	4						
計	0	25	6	35	146	24	116	3	43	0	34	62	0	29	0	0	2	0

◆◆◆年齢別発生状況(インフルエンザ・小児科・眼科・基幹定点)◆◆◆

インフルエンザ定点	合計	0～5ヶ月	6～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10～14	15～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～79	80歳以上	
インフルエンザ	0																					
小児科定点年齢	合計	～6ヶ月	～12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10～14	15～19	20歳以上							
RSウイルス感染症	25	3	13	6	3																	
咽頭結膜熱	6			3	1					1												
A群溶血性連鎖球菌咽頭炎	35		1	2	3	6	5	5	2	3	1	3	2	1	1							
感染性胃腸炎	146	9	13	32	10	10	6	8	9	7	7	5	18	3	9							
水痘	24		2	5	5	5	2	1		1	1	1	1									
手足口病	116	1	10	36	20	22	11	6	5			2	2		1							
伝染性紅斑	3					1	2															
突発性発しん	43		20	21	2																	
百日咳	0																					
ヘルパンギーナ	34	1	4	10	4	5	4	2			1	1	2									
流行性耳下腺炎	62			6	7	8	7	15	7	4	2	4	2									
眼科定点年齢区分	合計	～6ヶ月	～12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10～14	15～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70歳以上		
急性出血性結膜炎	0																					
流行性角結膜炎	29		1		1				2	1		1			3	3	10	1	1	3	2	
基幹定点年齢区分	合計	0歳	1～4	5～9	10～14	15～19	20～24	25～29	30～34	35～39	40～44	45～49	50～54	55～59	60～64	65～69	70歳以上					
細菌性髄膜炎	0																					
無菌性髄膜炎	0																					
マイコプラズマ肺炎	2		1			1																
クラミジア肺炎	0																					

**大きな流行が発生
又は継続しつつある地域**

- 手足口病：菊池・八代・人吉
宇城・天草
- ヘルパンギーナ：天草

日本紅斑熱

(ほんこうはんねつ)

今週は、日本紅斑熱の報告が3件ありました。今年に入り、10件目で半分が天草地域からの報告です。
 ■感染経路：日本紅斑熱は、細菌の一種であるリケッチアによる感染症であり、野山に入ったときにこのリケッチアをもつダニに刺されることで、感染します。リケッチアは、ダニからダニへ受け継がれるほか、ダニが野生動物(ネズミやシカなど)を吸血することで、野生動物が感染し、感染巣となっています(野生動物→ダニ→人)。ただし、人から人へ感染することはありません。
 ■発生時期：発生時期は、春～秋にかけて多く報告されています。
 ■症状：感染すると、2～8日間の潜伏期を経て、頭痛、発熱、倦怠感、発疹、ダニの刺し口などの症状が見られます。中でも、発熱、発疹、ダニの刺し口は、ほとんどの症例に見られます。
 ■予防するには：ダニに刺されないようにすることが重要です。発生時期や発生が多い地域で、農作業や森林作業で野山に立ち入る場合は、(1)皮膚の露出を少なくしダニの付着を防ぐ(2)ダニ忌避剤を使用する(3)作業後入浴し、注意深く付着ダニの除去を行う。この際、感染を防ぐためダニを指でつぶさず、頭部をピンセットなどで摘んで除去する(ダニが皮膚に深く刺しており、入浴だけでは除去できない可能性がある。)
 ※ダニに刺される機会があった後、上記のような症状がある場合は、早めに医療機関を受診して下さい。